

硅化石

熊大・教育 田村 実

石灰岩を酸で融かして化石をとり出す方法は古くから行われている。使用する酸は塩酸が安く、しかも作用が強くて仕事が早い。しかし石灰岩中にコノドントのように磷酸石灰の殻をもっている化石があれば殻をとかしてしまうので、醋酸と蟻酸が使用される。石灰岩中の化石はこのようにしてとり出さなければ全体の形をしらべられない。しかしこの場合に石灰岩中の化石が硅化等して酸にとけないようであればならない。残渣中の化石は細部迄保存されていることが普通で、す

ばらしいものが得られるが、残念ながら日本ではこのような石灰岩が殆ど存在しない。

写真に示したのはバージニア州のオルドビス紀石灰岩をとかした残渣で、一枚はそのまゝ（但し粘土をふるい落した）、他はその中から三葉虫だけを拾い、横に完全な三葉虫と比較のためにおいたものである。三葉虫は破片だがいぼや突起が実によく保存されている。この残渣にはオストラコーダと海綿が非常に多く、世界でもこの種の硅化石灰岩として代表的なものである。

